

# 新宿OR研究会40年の系譜



川中子 敬至 (新宿OR研究会世話人, 足利大学)

## 1. はじめに

2019年2月19日(火)、足掛け40年続いた「新宿OR研究会」が最終回を迎えた。筆者は1980年の第1回から参加してきた関係で、最終回までの系譜をまとめるようにとのお話をいただいた。

そこで、残っている資料を基に筆を進めていこうと考えているが、何分にも記憶に頼る部分が多く、甚だ頼りない。怪しい点は平にご容赦願いたい。

## 2. 研究会のはじまり

1980年当時、すでに「丸の内ORクラブ」という、少しリッチな研究会が存在していた。筆者が耳にした限りでは、夕食まで出していたという。創設者の矢部眞氏(工学院大学、出身は国鉄)は、この丸の内ORクラブを参考に、昼食時の研究会を企画したようである。

最初は、国鉄北海道支社長を務めた横山勝義氏の退職後の仕事がハッキリしなかったため、有志で元気づけをする内輪の会を作ろうとしたが、設立へ向けての参加予定者への声がけと、日本OR学会の全面的な協力によって、学会の正式な集会へと育っていったようである。後に横山氏は日本OR学会の会長へ就任しているから、繋がりには相応と考えられる。

創設当初の世話人は矢部氏と井上洋一氏(国際電電(株))で、幹事として平本巖氏(日科技研)と椎塚久雄氏(工学院大学)が着任していた。また、初回からOR学会事務局長の鈴木規子氏が研究会の庶務を担当しており、学会事務局の協力も並大抵なレベルではなかった。筆者が第1回から研究会へ参加しているのは、矢部研究室の大学院生であったことによる。

第1回は1980年9月16日(火)で、会場は新宿・中村屋であった。講師は松平充祐氏(太平洋交流基金)で、演題は「国際交流と世界の平和」となっていた。参加者12名の中には、横山勝義氏・小野木次郎氏・馬場知己氏、それに矢部氏と国鉄出身者が多数含まれており、当初の目的は達成されていたようである。

この回以降、8月と12月を除く毎月第3火曜日のお

昼を定例とした。また、会場が新宿となるため、新宿OR研究会と命名された。ただし、初回からしばらくは「第一新宿OR研究会」とされ、メンバーが増えた時点で第二を分離する予定であった。しかし、第二が分離されることはなかった。

## 3. 40年の系譜

創設から数年後に、それまで幹事をされていた平本氏が首都圏以外にある大学の教員となったため、小池清氏(日本IBM)が代わりに幹事となった。さらに、小池氏は井上氏の逝去後には世話人代表となり、これ以降しばらくの期間は幹事を置かなかった。

創設当初に見学会を開こうという考えがあったかどうかかわからないが、小池氏が精力的に活動されて、合計4回の見学会を実施している。

最初が、1989年12月18日(月)に最新インテリジェントビルのOAシステムということで、日本IBM箱崎営業所を見学した。2回目は、1992年12月8日(火)に日本IBM野洲工場(滋賀県)を訪れている。ともに、小池氏がコーディネータを務められた。特に、IBM野洲工場は見学後に琵琶湖畔の電電公社研修所へ1泊するという本格的なもので、この宿泊に関しては井上氏にお世話になっている。

3回目は2000年7月25日(火)に「ゆりかもめ車両工場」を見学した。このときは(株)ゆりかもめ常務取締役の藤井誠氏にお世話になった。また、4回目は2009年12月14日(月)に、大成建設(株)技術センターを訪ねている。このときは、世話人の1人である永井達也氏(元・大成建設)がコーディネータを務められた。

また、40年の間には研究会の会場変更も数度あった。最初の設定が参加費2,500円であったため、2年ほどで新宿・中村屋では赤字となるようになり、別な会場を探す必要が生じた。このとき活躍されたのが前出の永井氏で、大成建設の本社がある新宿センタービル内のレストランと交渉され、53階にあるスカイレストラン・レダへ移った。

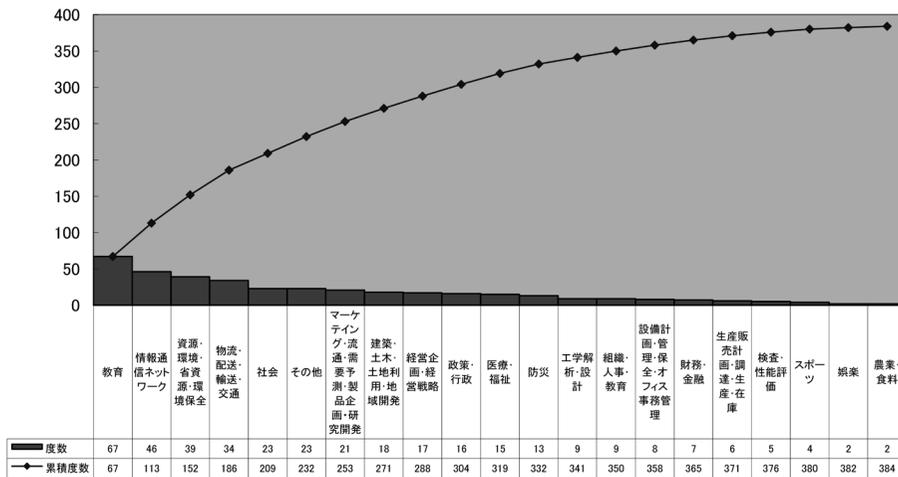


図1 新宿OR研究会の全講演内容

さらに、レダが閉店してからは、同じフロアにある東天紅を利用し、2016年1月まで33年ほど新宿センタービルを使い続けた。その後、新宿センタービル53階からレストラン街が除かれるようになり、OR学会事務局をお借りして研究会は継続されてきた。

ところが、2018年1月に小池氏が逝去されたため、筆者に世話人が回ってきた。それまでの世話人と異なって力不足のため、中野一夫氏（(株)構造計画研究所）が幹事としてご支援くださることになり、最終回までこの体制で続けた。

#### 4. 講演内容

最終回の第385回までに、2011年3月15日（火）の第306回を休会とした以外の384回の講演が行われている。第306回が休止となったのは、東日本大震災で首都圏の交通が麻痺したためである。

筆者の手元には講演題目と講師を一覧にしたファイルがあるが、印刷すると20ページにも及ぶため、ここへ表記するのは難しいと考えられる。また、講師も全体で267名が務めており、これも一覧とするのは困難である。ちなみに、講師を務めた回数が多いのは筆者の7回で、矢部氏と八戸英夫氏（工学院大学）がともに6回で続く。

整理のために、OR WikiにあるOR適用分野を基に、一部を統合した以下のような分類を作ってみた。

- (1) マーケティング・流通・需要予測・製品企画・研究開発
- (2) 生産販売計画・調達・生産・在庫
- (3) 物流・配送・輸送・交通

- (4) 検査・性能評価
- (5) 設備計画・管理・保全・オフィス事務管理
- (6) 経営企画・経営戦略
- (7) 財務・金融
- (8) 組織・人事・教育
- (9) 情報通信ネットワーク
- (10) 政策・行政
- (11) 医療・福祉
- (12) 教育
- (13) 防災
- (14) 資源・環境・省資源・環境保全
- (15) 工学解析・設計
- (16) 建築・土木・土地利用・地域開発
- (17) 農業・食料
- (18) 社会
- (19) スポーツ
- (20) 娯楽
- (21) その他

これら21分類に従って、講演題目を筆者の目線で整理してみると、ヒストグラムおよびパレート図が作れる（図1）。

字が小さくて見づらいとは思いますが、回数が多い順に示してみると、(12) 教育、(9) 情報通信ネットワーク、(14) 資源・環境・省資源・環境保全、(3) 物流・配送・輸送・交通、(18) 社会の順となる。また、図を見れば明らかなように、回数が多い四つほどの項目を除けば、範囲が広い内容をまんべんなく取り上げていたことになる。

当初から、身の周りを見て参加者の多くが聞いてみ



図2 新宿OR研究会懇親会風景

たいようなテーマを取り上げる，という方針で講師を選定した結果，ORに限らないさまざまな分野での最新の情報が得られるよさがあった．分類した結果も，このことの反映であると考えられる．

なお，第102回（1990年10月16日（火））の後藤正夫氏（この時点では前法務大臣）「私とOR」や第383回（2018年11月20日（火））の荒井武彦氏（足利大学，前職はJAXA）「小惑星探査機はやぶさ2の科学データ解析」のように，公表が避けられるようなものや公表より前に詳細な情報が伝えられたものもあった．

## 5. おわりに

すでに述べているように，初回からOR学会事務局の協力が並大抵なレベルではなかったことから，藤木秀夫氏と滝沢壽樹氏という歴代事務局長が退任の際に，新宿OR研究会として送別会を開いていた．

しかし，懇親会を開いたことはなかった．そこで，最終回の後に，最初で最後の懇親会を開いた．年間ではわずかかもしれないが，40年近く続けていれば余剰金もそれなりには増える．そこで，この唯一の懇親会は参加費無料とした．

懇親会前の最後の研究会では，講師の山田修一氏

（NEC ネットエスアイ（株））が「プロジェクトマネジメントスタイル最適化アプローチとOR理論の応用」という題目で講演された．その中で，学びの場や学びの方法の重要性を述べられ，「全員でちょっと贅沢な昼食」，「ひとりひとこと」，「講演」というスタイルはとてもよいと強調されていた．また，講演の最後を「Let's get started」と締めくくられ，新たな開始を望まれていた．

講演後の懇親会へ参加されたのは，山田修一氏，伊東映仁氏（Maudit），大山達雄氏（政策研究大学院大学，前OR学会長），川島幸之助氏（東京農工大学），澁谷宣之氏（（株）オクトーバースカイ），高井英造氏（（株）フレームワークス），永井達也氏（NPO法人住環境ネット），中野一夫氏（（株）構造計画研究所），森戸晋氏（早稲田大学），山田郁夫氏（元・三菱電機，元・三菱総研），三好潤氏（（株）建設エンジニアリング），内山司郎OR学会事務局長と筆者であった．特に，80歳台の3名が出席されたのは，筆者の力不足への叱責と受け止めている．

大山氏も何らかの形で後継の研究会を行いたいと考えておられるようで，今後の展開に期待したい．最後に，日頃から大変お世話になっている学会事務局の内山氏，廣瀬美春氏，太田裕美氏に感謝し，結びとする．